

経営

2014年1月1日

## 「2014年 年頭所感」

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
 新しい年を迎えるにあたり、昨年の振り返りと本年以降の取り組みについて述べさせていただきます。

### ◆ カーエレクトロニクス市場では次世代製品の研究開発が加速

2013年は、自動車の販売が、拡大を牽引してきた新興国の一部などで鈍化したものの北米を中心に概ね堅調に推移しました。

カーエレクトロニクス市場におきましては、スマートフォンを介してナビゲーションとデータセンターが連携する“つながる”商品の投入や、自動運転に関連する技術の相次ぐ公開など、次世代を見据えた製品の研究開発が加速してまいりました。



代表取締役社長 重松 崇

### ◆ センター連携/音声対話検索ナビ投入、アセアン・新興国ビジネス本格化

そのような中、当社グループにおきましても、成長が見込まれる領域において活動の礎を築くことができました。

Vehicle-ICT 事業の一翼を担う「ECLIPSE」<sup>イクリプス</sup>カーナビゲーションシステムでは、目的地を対話形式で絞り込む“スマホ経由データセンター連携/音声対話検索”ナビを投入。ナビゲーションとスマートフォンを初めて「Wi-Fi®」接続するなど「快適・利便」性を高めることができました。「安心・安全」システムにおきましては、海外メーカーとのアライアンスにより、ミリ波レーダーやカメラなどを用いて障害物を検知するセンシング技術の共同開発に着手。いずれの動きも次世代製品の研究開発に先鞭をつけるものであります。

また、アセアンビジネスでは、昨年(2013年)4月に同ビジネスの統括機能を富士通テナイランドに設置。今春には富士通テンマニュファクチャリングインドネシアが本格稼働に入る予定です。さらに、新興国ビジネスでは、昨年(2013年)9月に富士通テンミンダインドが量産を開始。いずれも、現地のニーズに即した製品を投入する体制を整えてまいりました。

### ◆ システムサプライヤーを念頭に先進運転支援システム(ADAS※1)事業を推進

2014年は、一昨年(2012年)10月、創立40周年を機に策定したスローガン「Try Evolution for the Next ~ 新たな TEN へ ~」を確実に実行する変革の年と位置付け、「システムサプライヤーを目指した事業の改革」を念頭に置き、新しい技術に挑戦してまいります。

例えば、ADAS 事業におきましては、駐停車時から万一の事故発生時まで、最先端のセンシング技術を駆使するとともに個人のドライブ特性をも考慮した、運転手サポートシステム(DSS※2)の開発を進めてまいります。

今後も、富士通テングループでは、「快適・利便」「安心・安全」「環境」の3分野において「Vehicle-ICT 事業」を推進し、人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献することを目指してまいります。

※1 ADAS: Advanced Driver Assistance System ※2 DSS: Driver Support System  
 Wi-Fi は、Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。

| 配布先                       | 日時                | 方法               |
|---------------------------|-------------------|------------------|
| 大阪機械記者クラブ・神戸経済記者クラブ・業界紙 他 | 2014年1月1日(水)00:00 | 資料配信(Fax、E-Mail) |